

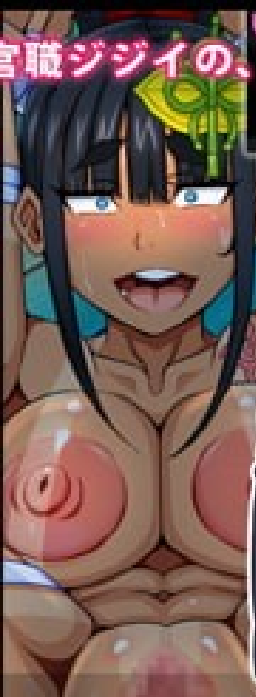
18禁

うす汚い官職ジジイの、エロチ○ポなんかに負けるものがッッ！！



流れ者くのいちの
立場の弱みに
つけこみ
庄屋が暴走暴入！！

「あつはあああんうー！」



小便・放尿
潮吹き・生ハメ
エロ折檻
大量中出し

お役御免になった
「くのいち」という年下マ○コ姉妹は、
仕方なくスケベ庄屋のチ○ポに鳴いた。



基本CG17枚+差分=全162ページ

角部屋天国

18禁

エロ庄屋のエロ屋敷で、2人のくのいちの、2つの淫らな肉ツボがオツ開く♡

エロ庄屋のエロ屋敷で、2人のくのいちの、2つの淫らな肉ツボがオツ開く♡

やくごめん
お役御免になった

「くのいち」という
しまい
年下マンコ姉妹は、

仕方なく

しょうや
スケベ庄屋のチンポに鳴いた。

角部屋天国

戦後の世、城を追放された2人のくのいち穴が、
エロ庄屋のエロチンポに服従していく好色物語絵巻。

登場人物紹介



みつが かえで

蜜賀 楓 (23歳)

蜜賀流の女忍者 (義姉に該当)
主 (あるじ) の命令を着実にこなし、
白い肌とみだらな女体で、男の目を
いつも楽しませてくれる、好色くの一。



みつが あなか

蜜賀 穴華 (18歳)

蜜賀流の女忍者 (義妹に該当)
日焼けた肌に、しまった体。..だが
性格は、まだガキ。今回抵抗むなく、
エロ庄屋に、その処女を奪われる。



しょうや

庄屋 (54歳)

この村を治める、官職エロ庄屋さま。
色欲がひどく、若い女の肌を見ると
見境なしにやりたがる、猿チンポ人間。
不気味な酒をもっている..

※レーティング注意：18禁

ククク・いい女体じゃのう♡エロくの一どもよ!
カネが欲しくば、ワシのエロチンポに鳴きわめけ!!

物語絵巻 (あらすじ)

まもなく戦国の時代が終わる..
それと同時に女忍者も、仕事を失う..
「...明日から、どう生きる..?」

その日の飯にありつくため、
とある村にやってきた、元(もと)くのいちの2人。
だが、そう簡単に、仕事にありつけるワケも無かった。
仕方なく2人は、庄屋の屋敷へと、相談に出向くが..

..そこで、庄屋にもちかけられた仕事とは、
「カネが欲しければ、三日三晩、ワシの妾(めかけ)をつとめ、
ワシのチンポを満足させ続けろ!」との事..

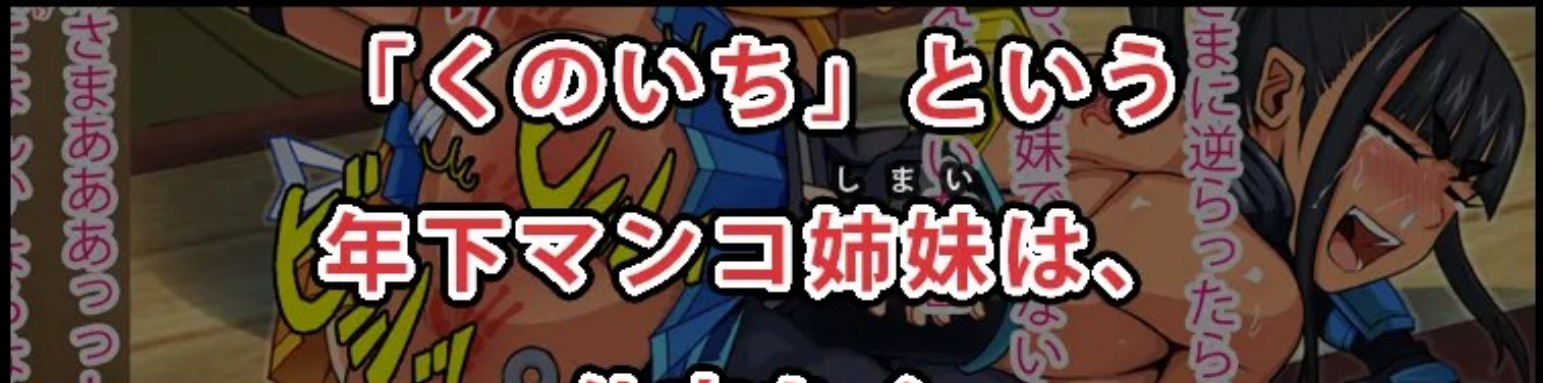
姉の楓(かえで)は、この要求を飲むが、
妹の穴華(あなか)は、この要求に猛反発。

体をさわるエロ庄屋を、殴ってしまう事件を引き起こす。
これに激怒した庄屋と楓(かえで)の二人は、
嫌がる穴華(あなか)を、無理矢理におさえつけ、
そのクソ生意気な、露(あらわ)な肉ツボに...

※レーティング注意: 18禁



お役御免になった



「くのいち」という
年下マンコ姉妹は、

仕方なく

スケベ庄屋のチンポに鳴いた。



それでは、本編のはじまりです。





時は^{とき}1592年。

日本の戦国時代は
終わりを迎えつつあった。

そして、

戦^{いくさ}が終わることにより、

仕事を失^{モノ}う者も

数多くいた。





戦の時代、
その美貌と
高い身体能力をもって
敵城へ忍びこみ、

内通役を果たしてきた
蜜賀流忍者「くのいち」…



彼女たちもまた、
戦が終わると、仕事は消失。

今までお仕えしてきた

主様 (あるじさま) より

お役御免を言い渡され、
お城を追放される。



- 蜜賀流 くのいち -

みつが かえで

蜜賀 楓

(義姉：23歳)



- 蜜賀流 くのいち -

みつが あなか

蜜賀 穴華

(義妹：18歳)

「自由」^{じゆう}は手に入れた。

：だが、

これから

自分たちの力で

生きてゆかねばならない。



穴華（あなか）

「姉さま：あねこれからあたしたち
どうやって
食べていけばいいの：？」

楓（かえで）

「そうね：
まずは、今晚泊まる宿に
ありつきましよう：」

くのいち姉妹は、

次の居場所・仕事を求めて、さまよう。





楓
(かえで)

「あのう、すみません。」

村人

「ん？何だ？

おめえさんたち？」



楓
(かえで)

「この村に、私たちに
させてもらえる、

仕事はありませんか？」

村人

「は？ 仕事？ この村に
仕事が無いからだ？」



村人

「ハハハハ！」

いなか

こんなクソ田舎の村に、
仕事なんてあるもんかー！」

楓（かえで）

「実は私たち、

お金に困っているんです！」

穴華（あなか）

「今晚、泊まる家が無いの！」



村人

「何だ。おめえさんたち、
よそ者か。」

だったら

この村の、しやうや庄屋さまにでも
相談してみろ。

仕事を

もらえるかもしれねえよ。」

楓 (かえで)

「え？ しやうや庄屋さま……？」

村人

「ああ。だけど用心しろよ。

あの庄屋しやうやさまは、**色欲**しきよくがひどいお方だからな。

そんなハレンチな格好かっこうのままでは絶対行くなよ。
何されるか分かんねえぞ。」

楓（かえで）

「え？ 庄屋さまは、

色欲がひどいお方なのですか？」

村人

「ああ、ひどいひどい。あの庄屋さまは**好色**^{ヘンタイ}家だ。
女をかどわかす、怪^{あや}しい酒も持つてるしな。」

穴華（あなか）

「…え？ あやしいさけ？」

村人

「そうさ。この前も、よそから来た若い娘が、
庄屋の**妾**^{めかけ}にされて、何人も身ごもったんだぜ。」

楓（かえで）

「…そ、そうなのですか？」

村人

「まあ、そういうこった。行くんなら用心しろよ。そんなオツパイ丸出しのままの、ハレンチな格好では絶対行くなよ。あのお方に、すぐに孕^{はら}まされちまうぞ。ハハハッ！」

楓
(かえで)

「は、はい、分かりました！
ご忠告ありがとうございます！」

「……あの村人　：本気で言っていたのかしら？

それとも、冗談なのかもしれないけれど：

とにかく、実際に行ってみるのかなさそうね：」

くのいちの二人は、早くも忠告を忘れたのか、
そのハレンチな服装のまま、

エロ庄屋のエロ屋敷(?)に出向いてしまった。



庄屋の屋敷の前

楓
(かえで)

「ごめんくださいーい。」

庄屋さまは、
おられますかー?」





- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)

庄屋

「ん？ 何だ？

おまえたちは…？」



- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)



楓
(かえで)

「庄屋さま、私たちをぜひ
ここで働かせてください!」

庄屋

「はあ? バカを抜かせ。
ワシは、働き手など
募^つっておらぬぞ。」



- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)



楓 (かえで)



「実は私たち、手元に
お金が無いんです！」

穴華 (あなか)

「今晚、泊まる家が無いの！」



庄屋

「ほう、なるほど。」

おまえたちは、よそから来た流れ者か。仕事も身寄りも無くて、金にも寝る場所にも困っておるのだな？

- この村を治めている -

しょうや

庄屋さま (54歳)

楓 (かえで)

「はい。そのとおりで
ございます。」

穴華 (あなか)

「そうなの！」

庄屋

「…いいだろう、分かった。

…ところでおまえたち。

…いい**体**をしておるではないか。

…実に美しい。フフフ。

あそばせておくには、もったいない
ほどの、実にいい**女体**によたいじゃ。

…どうじゃ？ 金に困っておるのなら、

ワシの相手をしてゆかぬか？」



楓 (かえで)

「えっ？」

相手^{あいて}と申しますよ…?」



庄屋
「ククク。分かっておろうが。
ワシの^{めかけ}妻になれと
言っとるんじゃないよ!」

庄屋

「ズバリ言おう。おまえたち、今日より三日間、ワシの女になれ！ 毎日ワシのイチモツを受け入れ、ワシのシモを喜ばせるのじゃ！

そしたら報酬として、

おまえたちに、3両ずつ支払おう！」

穴華（あなか）

「さ、**3両**ツツツ!？」

楓（かえで）

「み、三日三晩の相手で、**3両**もいただけるのですか！」

庄屋

「ああやろう。ワシは庄屋じゃからのう。

年齢^{とし}は食っているが、金だけは

いくらでも持っているぞー！　ブワハハハハ！！」

楓（かえで）

「わ、分かりました、庄屋さま。

その役目、：引き受けさせていただきます。

今日より三日三晩、わたしたち二人の

この胸と、このオマンコは、庄屋さまだけのもの：♡

存分にご堪能たんのうくださいませ♡」

穴華（あなか）

「ええっ！？ あ、姉さまっ！？

わたしは嫌いやでございますっ！！」



庄屋「ほう！ おまえたち！

あの城で、**くのいち稼業**をやっておったのか！」

楓（かえで）

「ええ。そうでございます…」

もみ

もみ



庄屋

「…だとすれば毎晩、ワシのほかにも

いるんな男に、こんな風に、抱かれてきたのか…？」

楓（かえで）

「さあどうかしら… そんな過去の事は、

もう忘れてしまいましたわ ♡

…だって、今のかえでは、

庄屋さまだけの女なのですもの ♡」

ハア
ハア

もみ
もみ

庄屋

「ククク、こいつ、とぼけおつてからに。かわいいのう♡
とここでかえでよ： おまえはくのいちじゃというのに：

。この肉。この柔らかさ。実際にいい女体じゃのう：！

虜とりこになってしまっそうじゃわい！」

楓（かえで）

「いやだわ庄屋さま。そんなにいやらしい目で、
ジロジロ見ないでください♡
かえで、恥ずかしいわ：♡」



楓(かえで)

「あん…♡ もう庄屋さまのオチンポ、ビンビン…
かえでのオマンコに、当たっちゃってるぅ♡」

すり

すり

庄屋

「はあはあいぞ。かえで！ もっと刺激してくれ！」

楓（かえで）

「庄屋さま♡」

「まだ発射しちゃうダメですよ♡」

すり

すり

すり

ハァハァ

庄屋

「ああかえで！ たまらん！ ワシはもう発射したいぞ！」

楓(かえで)

「ウフフ♥もう出しちゃうっ?」

ハア

ハア

すり

すり

すり

すり

庄屋

「ああ、もう出しちゃう! ほら、そこにいる女!
おまえも一緒にこっちへ来い! ワシの精液を飲めっ!」



興奮した庄屋は、

自分の精液を飲ませようと、

もう一人のくのいち「穴華」の腕を引っばった
その時だった！

バチイイイイツツ！！





穴華 (あなか)

「さわるなっ! この変態ジジイっ!」

バチッ

なんと穴華は、庄屋の頬を、
反射的にひっぱたいてしまった。



座屋

「きさまっ!?! 何をするッ!?!」

楓 (かえで)

「穴華っ!」

「座屋さまに向かって、何てことをっ!」

穴華 (あなか)

「うるさいっ！ あたしはアンタの妾になるなんて一言も言っていない！ そんな汚れたいやらしい手であたしの体に、気安くさわるなっ！！」

庄屋

「ほう、女。ワシにたてつく気か！？」

穴華 (あなか)

「だったら、何だっぺんだよ！ このエロシジイ！」



座屋

「ククク… いいのう、いいのう、
若いおなごは…」

気が荒く、まっすぐで、恥じらいを持つ…
何とエロい生き物なのじゃ…!! クククク!

それでこそ、この三日間、
おとし 貶める楽しみが増えるというものよ!」





穴華 (あなが)

「コイツ！ 狂ってるのか？」

あたしは、アンタなんかに仕えない！

あたしは、くのいちよ！

おまえごとき、いつだって殺せるんだ！

なんなら今ここで、

おまえの喉を、かき切ってやろうか！」

楓（かえで）

「やめなさい穴華！

庄屋さまを手にかけたら、私が承知しないわよ！」

穴華（あなか）

「で、でもっ……！」

楓（かえで）

「私たちは、庄屋さまのご依頼を引き受けたんだ！
これは仕事！ 途中で放棄するなんて
くのいちとしてあるまじき行為ッ！！

あなたのその緩ゆるんだ性根を、
今からたたきなおしてやるわッ！」



穴華 (あなか)

「ぎゃあああつ!!? 姉さまっ!!?
何をするのっ!!?」

楓 (かえで)
「うるさい! 早くお尻を出せっつ!!」





穴華 (あなか)

「やめて姉さまっ! アイツが見てるっ
恥ずかしいようっ!」



楓 (かえで)

「おだまりなさいっ!」

楓 (かえで)

「穴華っ！ 戦の時代はもう終わったのよ！
いつまでも人を殺めて、この世の中を、
本気で渡っていきえると思っているのー？」

穴華 (あなが)

「で、ですが、姉さまっ！」



楓(かえで)

「あなたも いい年なのよ！
これからは、人に^{ゆめらく}快楽を与える術も覚えなさい！

まずはここで三日間、

庄屋さまのシモのご相手をするの！

庄屋さまのシモを喜ばせ、シモにきもちよく
射精していただく術を^{すべ}学ぶのよ！」



穴華（あなぐ）

「絶対、嫌ですッッ！」

あたしはアイツを殺すッッ！」

あたしはこれからも、くのいちとして
生きていくんだっ——！」

楓（かえで）

「このバカッ！」

甘ったれたこと言ってんじゃないわよ——！」



楓 (かえで)

「穴華っ！ 今度、庄屋さまに逆らったら、
もうお前とは絶縁よ！
お前など、もう仲間でも、義妹でもない！
どこへでも、勝手に消えちまいな！」

穴華 (あなか)

「ゼツタイ嫌です！ 姉さまあああつっ！！
あたしは、アイツの妾になんかならない！
それにあたしは、姉さまからも、絶対離れないっ！」



楓 (かえて)

「あきれた！」

何て聞きわけのないバカ娘なの！お前は！

お前のようなわがままなヤツなど、

もう顔も見たくない！

金輪際、私の前に姿を現わせるな！

今すぐここを出てゆけ！」

穴華 (あなが)

「嫌です！ 姉さまああっっ！！」

穴華は、一人では生きてはゆけませんっ！

穴華は、姉さまがいないと、何もできませんっ！」



庄屋

「ヒヤハハハハハッ！ いいのう、かえで——！

躰しっけが、ゆきとどいておるわい！

ワシの**股間**が騒さわいでしょうがないぞ！

ああ、もうガマンできんっ！

もう、そやつの**肉ツボ**に、ワシの肉棒を

タツプリと奥まで……！ 挿入させておくれッッ……！」

楓（かえで）

「ええ庄屋さま♡

この、甘ったれた**小娘の肉ツボ**に：

現実の厳しさを、

タツプリと教え込んでやってくださいな♡」

庄屋

「ビヤハハハ！いれるぞー！！！」

ズブズブズブズブ！！

穴華（あなか）

「い、イタイイタイーっ！！！」



穴華 (あなか)

「こ、こらっ！ エロジジイッ！
汚いチンポ、勝手にいれるなー！」

パッコ

パッコ

庄屋

「ヌオオおおッ、せ、せまいのう…!!
ハアハア、この娘は一体いくつなのじゃ？」

楓 (かえで)

「今年で18(歳)です。庄屋様。」



庄屋

「ほう！18（歳）か！ どおりで！

穴華とやらよ！

そちの肉ツボは、よくしまつて窮屈^{きんくつ}じゃのー！
実にきもちがいいぞー！

ククク…！ くのいちといえど、

ここは、鍛えられんからのう！

…おまえの中の、

ミニズ千匹^{せんびつ}が

ワシのチンポに絡みついで、
喜びさわいでおるわい！！



穴華 (あなか)

「う、うるさいバカ! そんなのいるか!

お前のチンポなんか、全然きもちよくないわ!

あたしは、姉さまの指示に従って、仕方なく、挿れさせてあげてるだけだ!

さっさと射精して終わらせる! このエロジジイ!」



庄屋

「ヒヒヒッ！ 元気なおなごじゃのう！
今は、ワシの慰み物^{なぐさ}じゃというのに！」

穴華^(あなが)

「うるさい！ カン違いするなよ！」

ちよつとでも、変な動きをしてみろ！

今ここで、おまえを

切り殺してやるからなっ！！」



庄屋

「ビヤハハハッ！ よく鳴く犬^{いぬ}じゃ！
でもオマンコは、こーんなに濡れとるぞー！
ほーれほーれ！」

穴華^(あなが)

「あんっ！」

「あんっ！」



庄屋

「のう、かえで。」

この娘は、男と交わるのが今日が初めてか？
ワシのイチモツが、この娘の初めてなのか？

楓（かえで）

「ええ庄屋さま。穴華が男と交わるのは、

今日が初めてでございますわ♥
記念日でございますわね。ウフフフ♥」

あっ

あっ



庄屋

「そうかそうか！ 嬉しいのう！ 夢があるのう！
こやつ肉ツボが、わしのチンポの形に染まるまで、
毎日毎日、かわいがってやらねばのう！！」

楓
(かえで)

「ウフフ。よかったわね穴華。」

庄屋さまが、あなたのオマンコをお気に入りよ♡

毎日、ご相手してもらえるそうだから、

あなたも、タツプリお勉強しなさい♡」

あっ

あっ



庄屋

「よおーし!! 出すぞ! 穴華っ!!
ワシの精子をたっぷり受けて、
ワシの子を身ごもるのじゃーっ!!」

穴華 (あなか)

「いやあああつ! バカーッ!
絶対出すなああつ!

「このエロジジイ! ヘンタイ! ドスケベッ!
おまえなんかそこで死ねーっっ!」











楓 (かえで)

「…ねえ庄屋さま。穴華ばかりずるいですわ！
かえでのオマンコも、庄屋さまのオチンポで
かきまわしてくださいな。」

庄屋

「おお、すまんすまん！
かえで！おぬしもかわいがってやらねばのうー！」

穴華「…。」







くぱぁ

庄屋

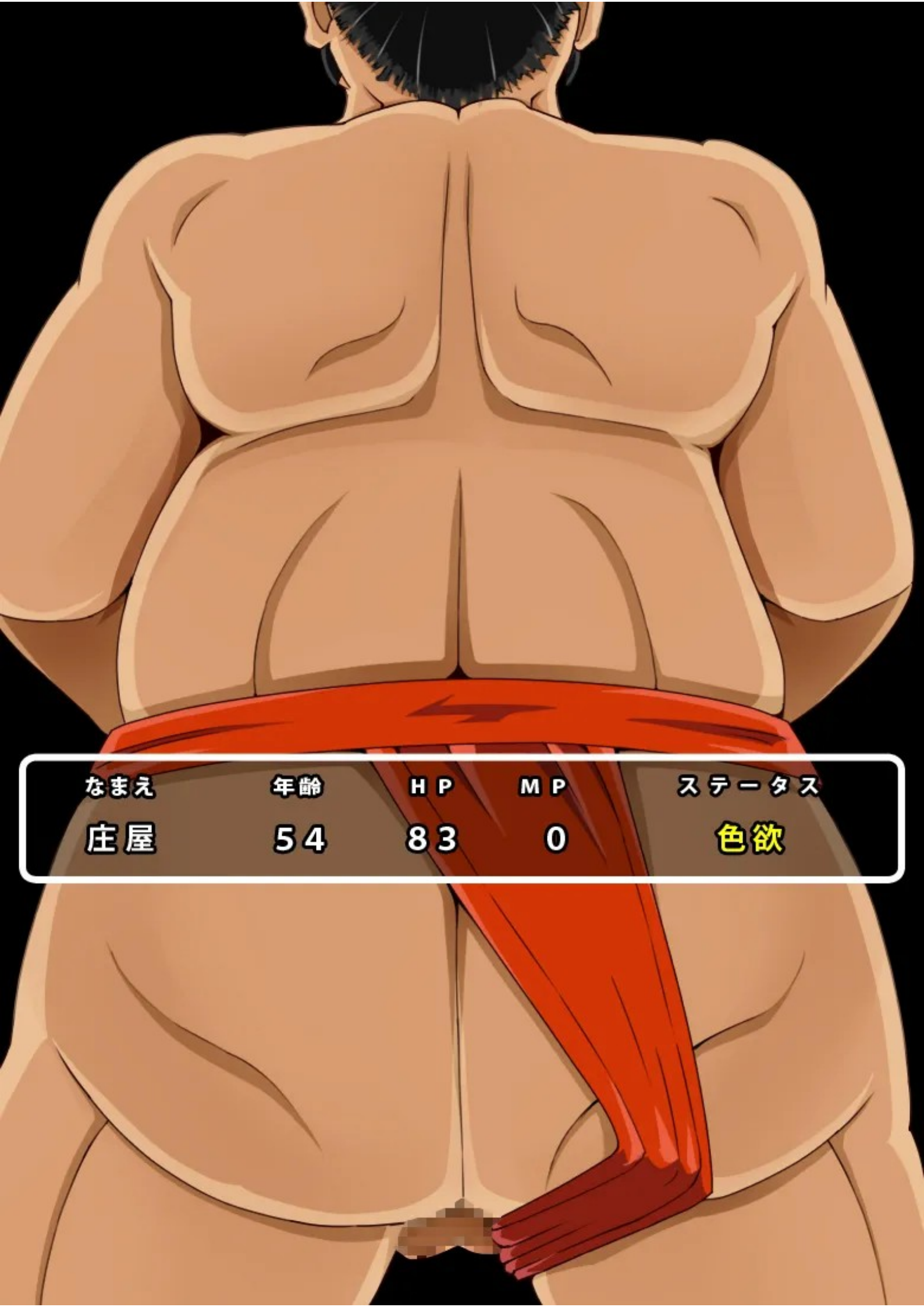
「おおお、準備万端じゃのう〜♪」

くぱぁ♡

楓 (かえで)

「ウフフ♡」





なまえ

年齢

HP

MP

ステータス

庄屋

54

83

0

色欲

ズ
ブ
ズ
ブ
ズ
ブ
!

楓
(かえで)

「あっはあああんっ♡」



ぱっく ぱっく ぱっく ぱっく

楓（かえで）

「あっはああん。庄屋さまあっ
オチンポ、カッタああいいつつ♡」

庄屋

「ハアハア、か、かえで…」

そちの肉ツボは、何と具合がいいのじゃ…!!
い、挿れただけでもう、イキそうじゃわいつ…!!」

パッコ パッコ パッコ パッコ

楓 (かえで)

「ああんっつ 庄屋さまっつ、 庄屋さまっつ、 庄屋さまっつ、 庄屋さまっつ、 庄屋さまっつ！」

庄屋

「か、かえで…！」

そんなに動くな！ そんなに刺激されると
ワシのイチモツが、もうもたんっ！」

グツチュ！

グツチュ！

グツチュ！

楓
(かえで)

「あああんっ！

庄屋さまっ、庄屋さまっ、庄屋さまっ、

庄屋さまっ！

庄屋さまあああんっっ！！」

庄屋

「ああああっ！

かえでっ！ ダメじゃ！

ワシはもう、イッてしまうぞッ！！」



ビュッ



ビュッ
ビュッ
ビュッ

楓
(かえで)

「あああんっ！どぐどぐどぐちやってるワウミッ♡」





楓 (かえで)

「はあはあ… 庄屋さまったら
もうイッちやっただの？」

「まだ早いすわあ…
かえではまだまだ足りませぬ♡」



庄屋

「ハアハア： かえでよ。ワシは精子の出しすぎで、
疲れたわい：。ちよつと待つとれよ：。魔蟲酒を飲むから。」

ハア

ハア

楓 (かえで)

「え？ マムシざけ：？ 何ですのそれ？」



まむしざけ
「魔蟲酒 マムシシユ」



その昔、鬼の一族
「酒吞童子^{しゅてんどうじ}」が
複数のメス鬼らと
交尾をする際、
好んで飲んだと
される酒。
(精力絶倫・強壮剤の
ような効果がある)

まむしざけ
「魔蟲酒 マムシシユ」



…この酒を一口飲むと、
どんなジジイでも、
こうがん
辜丸まわりの血流が
活性化され、
人間離れした
「鬼^{オニ}ボツキ力」を
得るとされている。

楓
(かえで)

「ウフフ♥そっでしたの！」

それは楽しみですわあ♥」



ゴクツ
ゴクツ

庄屋

「ウガアアアアッ!!」

楓
(かえで)

「ぎゃああああっ!?!」

軽いバケモノと化した、庄屋は、
かえでとの交尾を再開した!





ズブズブ！

楓
(かえで)

「あっはあああんっ♡
カタいチンポ来たああんっ！」

庄屋

「ヌオオオツ！ きもちいいのオツ！ カエデよツ！
ワシの腰が止まんわい！」

楓（かえで）

「あああんっ 庄屋さま！
チンポがさつきより、
全然大きくてカタいですっっっ！」

パッ
パッ
コ
コ

庄屋

「どうじゃアアツツ！ カエデよツツ！

ワシのチンポは、きもちいいじやろうガアアツツ！！」

パン！パン！
パン！パン！

楓（かえで）

「ああんっ庄屋さまっ！ きもちいいですっ！

もっと奥まで、ぶち込んでええっ♡」

庄屋

「ソラ！ ソラ！ ソラ！ ソラアアアツツ！！
カエデエエツツ！ 中に出すぞオオオツツ！！」

ズン！ズン！ズン！ズン！
ズン！ズン！ズン！ズン！

楓（かえで）

「だっめえええっっ、かえでのオマンコ、
もう、ガマンできないのおおっっー！」





ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ

楓
(かえで)

「あっはあああんっ!」





楓
(かえで)

「あっ
あんっ
ダメッ！」

**出ちゃう
出ちゃうっつ
っ！っ！っ！**



庄屋

『オオオオツ カエデーッ』

見事な潮吹き桜じゃ！

いやらしい眺めじゃのオオツ♡

かえでは、
たまらず潮を吹いてしまった！



庄屋

「フフフフ：！」

あれほど射精したのに：イチモツが萎えない！

ボツキ力が維持されたままだ：！

さすが魔蟲酒マムシシユ：！　まだまだ射精できるぞ！」

庄屋

「ククク……！」

さあて、次は……！」

穴華「ん？」



穴華（あなか）

「ゲツ!？」

エ、

エロジジイッ!?

…な、

何だその肌の色ッ!?

おまえ、まるで物の怪じゃないか!

モノノケ

…おまえ人間やめたのかよッ!？」



庄屋

「バーカ。人間をやめたのでは無い。。」

マムシシユ

魔蟲酒を飲んで、鬼の性欲を得たのよツ！

「ブワハハハハ！」

穴華 (あなか)

「..ま、マムシシユ...!?!」



庄屋

「クククク！ 穴華！

今からおまえのクソ生意気な、クソガキマンコに、
ワシのえげつない鬼チンポを、
タツプリくれてやるからのう〜！ 覚悟せえよ！」

穴華（あなか）

「いやあああつー！！

寄るな！

来るなツツー！！」



なまえ

年齢

HP

MP

ステータス

才二庄屋

54

444

0

性欲絶倫

庄屋「オラアアアアッ」

穴華（あなか）

「嫌あああんっ！」

大っきすぎるううウッッ！」

ズ
ブ
ブ
ブ
！

ぱっく ぱっく ぱっく ぱっく

穴華（あなか）

「や、やめる、バケモノッ！ エロジジイッ！
あっち行けよー！ そんなのムリイッッ！
あたしのオマンコ、こわれちゃうってッ！」

庄屋

「やかましい！ 小娘ッ！」

庄屋

「ブワハハハハ！ 小娘——！！」

お前の性欲も、だいぶ開発されてきたじゃないかー！
このスケベクソガキめ！　ここはもう感じてきとるぞッ！』

ズッコ

ズツコ

ズッコ

ズツコ

穴華 (あなか)

「ち、ちがうっ！」

あたしは感じてなんか無いッ!」

ズボツ！ズボツ！ズボツ！ズボツ！ズボツ！

庄屋

「ウソをつけ！　じゃあコレはなんだ！　お前の肉ツボの奥から、
汁が、どんどんあふれてきとるじゃないか！」

穴華（あなか）

「だ、だってそれはっ…！　そんなに激しく
オマンコ突かれたら…　もうガマンできなくな…るッ…！」

グチャッ
グチャッ



穴華（あなか）

「もう、ダメえええっ！

あたしのオマンコ、もうガマンできないのおおおツツ!!」



ぷしゅあめあめあめあめっ



穴華 (あなか)

「嫌あああつ！」

見ないでえええつ！」

ジャアアアアアッ

庄屋

「ヒヤハハハハ！」

きもちよすぎて、潮をもらしておるわ！

なんてはしたない、クソガキなんじゃお前は！」

庄屋

「…そんな、はしたないお前の肉ツボに、
ワシからのごほうびを、タツプリ流し込んでやる！」

受け取れッッ！！！！」





ぐっぱああぐ





びゅっ

びゅっ

びゅっ

穴華 (あなか)

「いやあああああっっっっ！」





庄屋

「どうじゃー！ 穴華ッ！

魔蟲酒の力で、

元気になったワシのチンポは、
最高じゃろうがッ！

もったかき回してほしかったら、

ワシのチンポ様サマに向かって、エロい声でお願いしろッ！！」

穴華（あなか）

「は、はい：・チンポさま♡」

チンポさまのその、たくましくて太っとい鬼チンポを：

ハア
ハア

モゾ

モゾ

穴華のいやらしいオマンコに
もっともつと、突っ込んでかき回してええええエエエツツ♡」



庄屋

「よく言った！ スケベ娘ーッッッ！
ソラッ！ 好きなだけ、イッて来いッ！」

ズブズブズブズブ

！

穴華（あなか）

「あっはあああんっ♡」



ぱっく ぱっく ぱっく ぱっく

庄屋

「どうじゃ穴華ッ！」

もう、ワシのチンポ無しでは、生きてゆけんじやろうガッ！」

穴華（あなか）

「は、はいっチンポさまっ♡

チンポさまの、鬼チンポサイコーッ♡

もう、オチンポ無しでは、生きてはゆけないのっっー！」

あっ

あっ

パン！

パン！

パン！

パン！

穴華（あなか）

「ああんっ♡チンポカタイツ！カタイオチンポだあい好きっ！
もっと突いてええッ 穴華のオマンコかき回してええッ♡」

あっ
あっ
あっ
あっ

庄屋

「ブワハハハハ！穴華ーッッッ！
お前も、スケベになりおったのおおーッッッ！」

パン！

パン！

パン！

パン！

穴華（あなか）

「あああんっ チンポさま！ あたしを！

この穴華を！

チンポさまの肉ツボオマンコヘンタイ便所女に

してくださあああいつっツツッ！♡」

庄屋

「よおおし穴華！ 喜ベッ！

おまえを、ワシ専用便女にしてやるぞ！

ワシの精液を、すべて飲み干すのじゃあああツツツ！！！」





ド
ピ
ュ
ッ



ビュッ
ビュッ

ビュッ

穴華 (あなか)

「あっはああああんっっー!」





穴華（あなか）

「はあはあヤバイ…♡ きもちよすぎて、

あたしのオシッコ、全部もれちゃうのとおおおっ♡

チンポさまあゝ、あたしのショウベン

全部、飲んでええええっ♡」







庄屋

「ビヤハハハ！ いいぞエロ娘ッ！

もっともっと、みだらな小便をぶちまけるのじゃアツツ！」

シヤアアアアアアアアアアア



庄屋

「…ウツ!？」

「…こ
これはツ!？」



庄屋

「…しまった！これは、ワナかつ！」

ね、ねむい……っ！！

…ワ、ワシを、ねむ眠り香がの小便臭しょうべんしゅうで、
さすがは、くのいち……！
予測もしなかったわ……！！



バ
タ
ツ

庄屋

ॐ नमो भगवते वासुदेवाय

なまえ	年齢	H P	M P	ステータス
才二庄屋	54	84	0	深い眠り

楓(かえで)

「ウフフフ♥穴華ッ! やったじゃない!
上出来よ! ぐっすり寝ちやつてるワ♥」

穴華(あなか)

「はあはあ、姉さまあつ

あたし、オシツコ止まんないよおおっっ」

なまえ	年齢	HP	MP	ステータス
オニ庄屋	54	84	0	深い眠り



蜜賀流 最終奥義

放尿忍法

くのいちの黄泉おくり^{よみ}

性交中の相手に、ひそかに
眠り香入りの小便をぶっかけ、

性交相手を、深い眠りにいざなう
究極の放尿暗殺忍法……



蜜賀流 最終奥義

放尿忍法

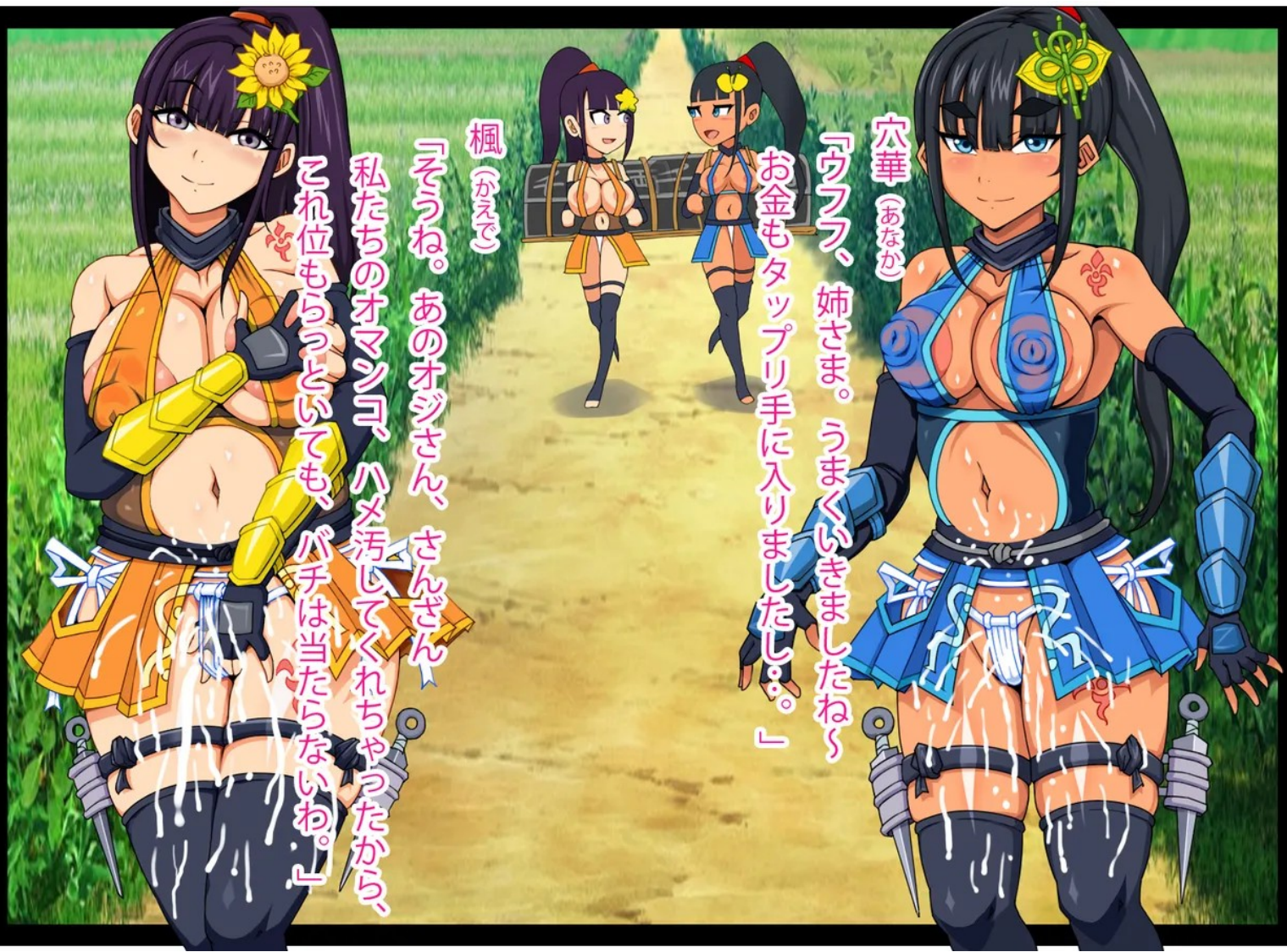
みつがりゅう さいしゅうおうぎ

くのいちの黄泉おくり^{よみ}

…この小便をかぶった者は、
最低でも10時間、眠ったままの
昏睡状態が続くため……

金品・財宝を盗まれる被害や、
くのいちの手により、そのまま
命を落としてしまう者まで
いたそうな。……放尿おそろしや。





穴華 (あなか)

「ウフフ、姉さま。うまくいきましたね、
お金もタップリ手に入りましたし。」

楓 (かえで)

「そうね。あのオジさん、さんざん
私たちのオマンコ、ハメ汚してくれちゃったから、
これ位もらっといても、バチは当たらないわ。」

穴華 (あなか)

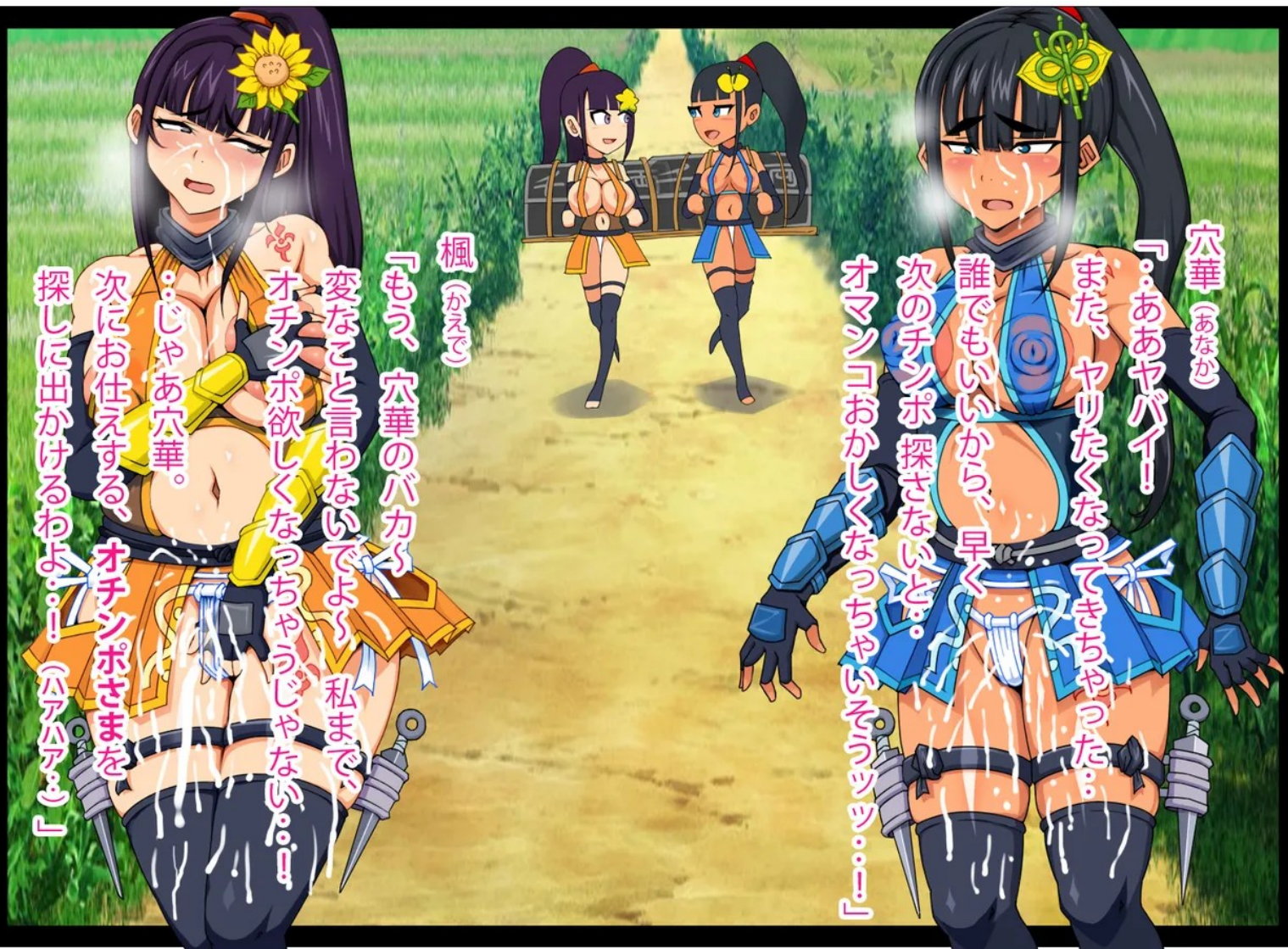
「でも姉さま。あたし、あのエロジジイに初めてヤラれて、チンポが好きになっちゃいました。」

時々、オマンコをいじっていないとチンポがほしくて、たまらなくなっちゃうんです。」

楓 (かえで)

「そうね。結局あたしたちも、あの、エロチンポ忍法にハマってしまった、ドヘンタイくのいちなのかもね。(ハアハア)」





穴華 (あなが)

「ああヤバイ!

また、やりたくなってきちゃった!

誰でもいいから、早く

次のチンポ探さないと!

オマンコおかしくなっちゃいそうツツ...!」

楓 (かえで)

「もう、穴華のバカさ

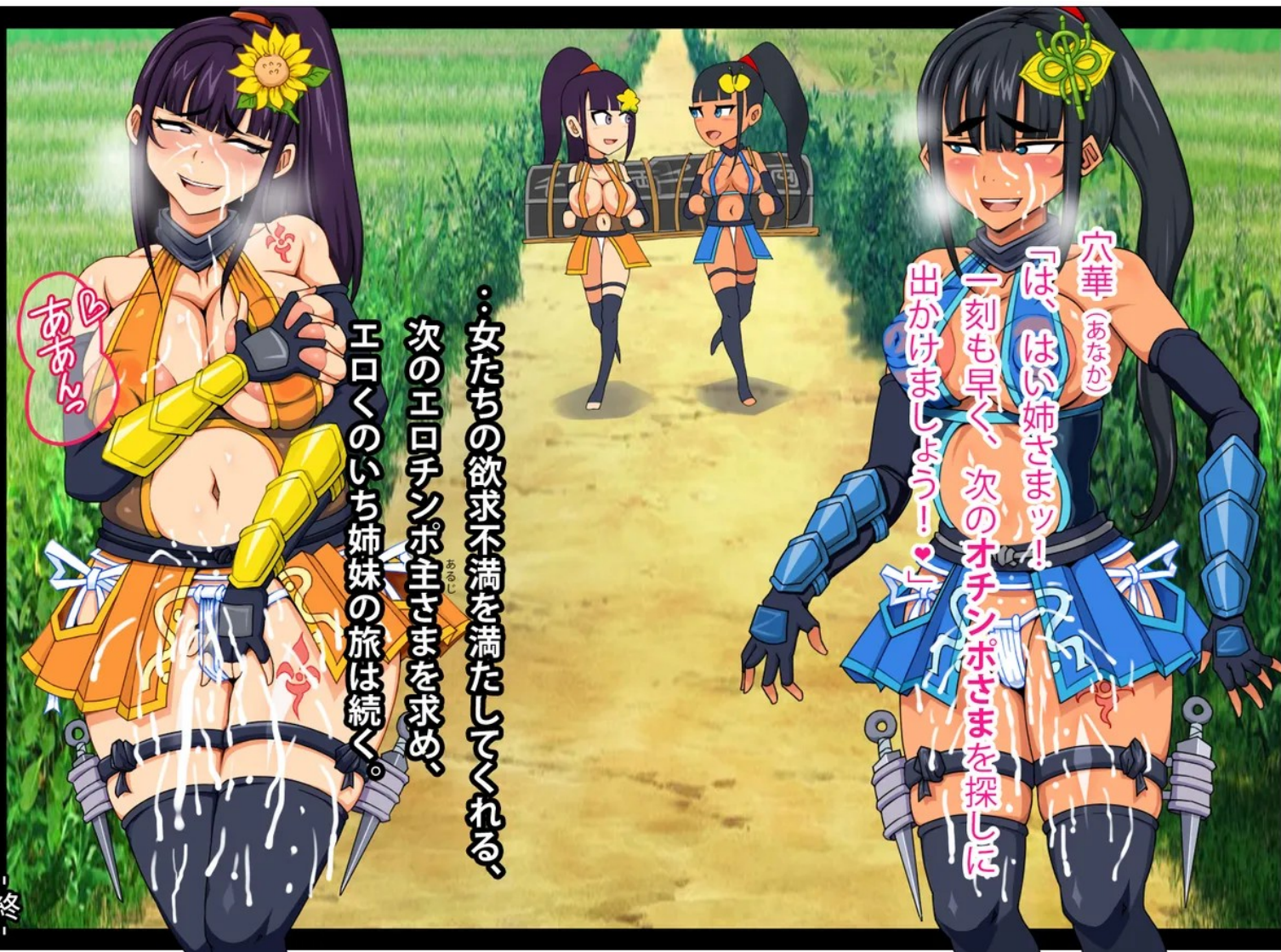
変なこと言わないでよ! 私まで、

オチンポ欲しくなっちゃうじゃない!!」

「じゃあ穴華。

次にお仕える、オチンポさまを

探しに出かけるわよ...! (ハアハア...!」



あぁっ

エロくのいち姉妹の旅は続く

次のエロチンポ主さまを求め、

・女たちの欲求不満を満たしてくれ、

穴華 (あなか)

「はい姉さまッ!

一刻も早く、次のオチンポさまを探しに

出かけましょう!」

最後までお読みいただきありがとうございました。

最後に巻末付録、

楓、穴華の（背景無し）立ち絵の納入を
もちまして、お開きとさせていただきます。

この度は、当サークル作品を

お買い上げいただき

まことにありがとうございます。

次回作は、20年度末か、21年度春頃公開を
目標に、2次エロ作りに進じてまいります。



くのいち

みつが
かえで
蜜賀 楓 (23歳)



くのいち

蜜賀 みつが

穴華 あなか

(18歳)





はああっ

やばっ

またね♡